

(著作権について考える)

(2)年 活動名 道徳 きつねくんの行動は？
 実践者 末長小学校 川村 昌弘

1.平成18年11月21日

2.ねらい
 知的財産権の基礎となる他人の作品を尊重する態度を育てる。

3.活動の流れ

活動及び取り組みの流れ	支援
<p>ペープサートによる以下の場面を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作文や絵の宿題に困ったきつねくんは、たぬきくんが書いた作文や、うさこちゃんが描いた絵の名前を自分の名前に変えてしまった！ その後、きつねくんは、学校の先生やたぬきくん・うさこちゃんに怒られてしまった。</p> </div> <p>きつねくんの行動について振り返り、自分が感じたことを発表したり、友達の発表をきいて考えたりしたことを発表する。</p> <p>当日は、 「名前を勝手に変えるなんてずるい！」などのきつねくんの行動を否定する意見が見られた。しかし、 「うさこちゃんは『あげるね』ていったよ。だから、うさこちゃんの絵の名前を変えてもうさこちゃんが怒るのは、おかしいよ！」 というきつねくんの行動を肯定する意見も見られた。 その後、きつねくんの行動について挙手をさせると、正しくない方が圧倒的に多く、なぜ、正しくないのかで話し合いが進んだ。</p> <p>作文や絵には、かいた人が持つ大切な権利があることを知る。</p>	<p>低学年の児童に親しみやすいように、きつねくん・たぬきくん・うさこちゃんのペープサートを用意した。</p> <p>たぬきくんが作文を渡すときには、「参考にさせてあげるね」、うさこちゃんが絵を渡すときには、「あげるね」と台詞を変える。</p> <p>できる限り児童が進んで発表できるように促す。</p> <p>意見が言えない児童がいる場合、きつねくんの行動は正しいか正しくないかで挙手をさせてみる。</p> <p>著作権について実例を出しながら説明する。</p>

4.この取り組みによって、子どもにどのような変化(成果)がありましたか。
 作文や、絵をかくときなどに、人の作品のまねやキャラクターを使うなどの行動は、減った。しかし、低学年が理解するにはまだ難しい題材であるため、今後も引き続き指導が必要である。